

## 授業概要

そもそもイギリス人の祖先である北ドイツの小部族、アングロ・サクソン人の言葉であった英語は、ヴァイキング、フランス人等の他民族の侵略によって言語の姿を変えていった。特に、1066年、フランスの一地方の領主による英国の武力制圧によって、その後およそ300年間英国の言葉がフランス語になったために、大量のフランス語が英語に入ったことは、英語に甚大な影響をもたらした。本講義では、このような数々の外圧に影響を受けて、徐々に現在の形に変化していった英語の歴史的過程を講義する。

英語を過去から歴史的に考察すれば、MacDonald という綴り字にはなぜ大文字がふたつあるのか、英単語の綴り字はなぜ不規則なのか、child の複数形 children には、通常名詞の複数形に見られる s（例えば books）がなぜついていないのかといった謎を解き明かすことができると同時に、国際語となった英語の今の姿をさらに深く理解することもできよう。

## 授業計画

第 1 回	オリエンテーション：授業の概要、成績の評価方法などの説明
第 2 回	古英語期：英語のルーツ（言語発祥の起源から英語が出来るまで）
第 3 回	古英語期：ケルト人、ローマ人によるイギリス侵略とその英語への影響
第 4 回	古英語期：アングロ・サクソン人によるイギリス侵略と彼らの文化
第 5 回	古英語期：古英語の主な特徴
第 6 回	古英語期：ヴァイキングによるイギリス侵略とその英語への影響
第 7 回	中英語期：ノルマン・コンクエスト（フランスの一領主による英国侵略）とその英語への影響
第 8 回	中英語期：中英語の主な特徴
第 9 回	近代英語期：標準語の成立と大母音推移（初期近代英語期の長母音に生じた音韻変化）
第 10 回	近代英語期：ルネサンスと宗教改革から生じた言語に対する相対する考
第 11 回	近代英語期：シェイクスピアの英語の基本的性格
第 12 回	近代英語期：綴り字問題（不規則な綴り字を統一する試みと現在の不規則な綴り字の原因）
第 13 回	近代英語期：規範文法の誕生（現在の英文法がいかに確立していったか）
第 14 回	近代英語期：アメリカ英語
第 15 回	まとめ（国際語としての英語も含めて）
第 16 回	定期試験（筆記試験）

## 到達目標

- ・英語の歴史上、各時代の英語の特徴を把握できる。
- ・歴史的な考察から、現在の英語の「姿」を理解することができる。

## 履修上の注意

この講義の目的は英語の読み書きではなく、ある言語の歴史を学ぶことにあるため、当然ながら英語が苦手な方も受講できる。言葉に興味がある方ならば受講を歓迎する。テキスト、プリント等は日本語で書かれたものを使用する。

## 予習・復習

配布するプリントには單元ごとに理解度をはかるチェック・ポイントを載せている。これを参考に毎回授業前にテキストを読んで授業の内容をあらかじめ理解していただきたい。授業後は、もう一度テキストを読んで、チェック・ポイントを解いて授業の復習をすること。新しい概念、専門用語がよく出てくるため、それらを理解し、吸収するために予習・復習は毎回行うこと。

## 評価方法

課題（30%）、授業後に提出するコメント・シート（10%）、定期試験（60%）で評価する。定期試験の問題は、授業中に受講者に配布するプリントにあらかじめ提示した問題の中から出題する。詳細については初回の授業で説明する。

## テキスト

- ・教科書名：『英語の歴史』（スタンダード英語講座 3）
- ・著者名：渡部昇一
- ・出版社名：大修館書店
- ・出版年（ISBN）：1983年（978-4-469-14183-2）